

# 東京成徳大学 ハ千代キャンパス 図書館だより

Vol. 20

2016. 6. 24 発行

図書館運営委員会

## 本づくりのリテラシー「表紙」

学長：海保博之先生



表紙は、ブックカバーほどには、趣向が凝らされていません。本の本体を物理的に保護する機能を優先しますので、本体より厚い紙になります。図書館などでは、ブックカバーや帯をとって棚にならべますので、味もそっけもない展示になってしまいます。それにひかえ、本屋の棚のにぎやかなこと。

「とっくんのツブヤキ～本屋の棚！？」

学長先生、ありがとう！そう言えば本屋さんの棚の並びは出版社別が多いって気がついてた？ 選ぶ人からすると作家別の方が探しやすいと思うなあ～みんなは、どうかな？

## <読んでみたい1冊>

### 「ヨイ豊（よいとよ）」

幕末から明治にかけて生きた浮世絵師四代歌川豊国の生涯と豊国をめぐる人々の話。初代歌川広重、歌川国芳、三代歌川豊国など、よく知られた浮世絵師の次の世代の、最後の浮世絵師たちの時代を描いたもの。物語の時間が行ったり来たりするところが少し読みにくいが、江戸の浮世絵師の世界、歌舞伎役者の世界がまざまざと見えてきて興味深い。芸術の世界は、才能のあるなしで決まってしまう、こわーい所、ということがしみじみ感じられる。でも、「お仕事小説」として読んでも大変面白い。

この作品を読んだ人はぜひ、豊国のライバルであった国芳一門を描いた河治和香の『俠風むすめ—国芳一門浮世絵草子—』を読んでみることをお勧めする。梶よう子とは違ったタッチで国芳という天才絵師を実にうまく描いている。

この本は第 154 回直木賞候補作品として店頭に並んでいたのですが、直木賞とれるかなと買って見たが、結果は落選でした。

梶よう子 講談社

¥1800 円+税



読んでみたい本があったら  
図書館スタッフまで  
遠慮なくどうぞ！

